

平成24年度  
実施事業

事務事業名 特別保育事業（障がい児保育）

区分	No	名称
章	1	やさしさと共生するまち
節	1	安心して子どもを生み育てられるまちをつくる
施策	1	子育ての不安と負担の軽減
小分類	3	子育て環境の整備
主要な施策	4	④乳幼児等保育の充実
事務事業番号	001	事業開始年度 平成 4 年度 事業終了年度 平成 ー 年度 会計種別 一般会計

部 名	保健福祉部	グループ名	子育てグループ
-----	-------	-------	---------

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	障がいを持つ子どもや発達に不安のある子どもの発育を促し健全な育成を図ることを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成24年度の実績を具体的に記入してください)
	<p>子どもの健全な心身の成長や発達を促すため、専任の保育士（※最低配置基準外の加配）を配置する。</p> <p>▼対象児童数：富士保育所～10名、鷺別保育所～6名、栄町保育所～2名、幌別東～4名 ▼加配保育士：富士保育所～5名、鷺別保育所～4名、栄町保育所～2名、幌別東～3名</p>
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	障がいを持つ子どもや発達に不安のある子どもの発育を支援する。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	登別市障害児保育実施要綱

事業費（財源内訳）の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H23年度 決算	H24年度 決算	H25年度 当初予算	H26年度 見込	H27年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円	70	60	76	76	76
事業費 合計			70	60	76	76	76

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	23年度 実績	24年度 実績	25年度 目標	26年度 目標	27年度 目標
成果 指標	① 対象児童数	人	目標値	—	—	—	—	—
			実績値	17	22			
	②		目標値					
			実績値					

比較		《Check》
平成24年度実施以前又は実施中に見られた課題、問題点等	左記の解決に向け行った取組や対策、工夫等	
<p>発達に不安のある子どもの入所が増加し、加配保育士の確保に苦慮している。</p>	<p>保育業務に支障をきたさないよう人事に雇用を働きかけ、また、保育士やのぞみ園の職員、保健師との連携に努めた。</p>	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について			
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見 近年における発達障がいが多様化や対象児童の増加に伴い、児童福祉及び障がい福祉の施策として重要な事業である。
	<input type="radio"/>	② 民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である	
	<input type="radio"/>	③ 国、道、他団体等との連携や広域化が可能である	
	<input type="radio"/>	④ 国、道、民間等の事業と重複・類似している	
2. 事務事業の必要性について			
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見 発達障がい児を持つ保護者からの相談が多くよせられ、必要性の高い事業と考える。
	<input type="radio"/>	② 市民アンケートの結果から必要性が高い	
	<input type="radio"/>	③ 社会情勢、地域事情等から必要性が高い	
	<input type="radio"/>	④ 市民の大部分が関連することから必要性が高い	
3. 事務事業の効率性について			
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見 事業自体の経費は低予算で抑えられている。
	<input type="radio"/>	② 市で実施するほうが民間委託より効率性が高い	
	<input type="radio"/>	③ 多額の経費や労力を要するがやむを得ない	
	<input type="radio"/>	④ 将来的に効率性を向上できる	
4. 事務事業の成果について			
目的を達成するための成果はあがっていますか？	<input type="radio"/>	① 成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見 特に、発達障がい児におけるの早期対応の観点から、効果が大きく、成果があがっていると考え。
	<input type="radio"/>	② 市民、団体等の声から成果を感じられる	
	<input type="radio"/>	③ 目に見える形で成果があがっている	
	<input type="radio"/>	④ 成果の把握は困難である	

①担当グループによる評価 《Check》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠) 近年、乳幼児期に発症が多いとされる、自閉症・ダウン症、注意欠陥・他動性などの発達障がいが増加傾向にあり、障がい児保育の果たす役割は今後さらに重要になると考えるため、引き続き、必要な事業である。また、平成26年度より「普通保育所運営事業」への統合を図り継続して事業に取り組んでいく。
----	--

②行政評価会議による評価 《Check》

維持	備考 補助対象外であることを踏まえ、事業統合にあたっては事業内容の精査を行うこと。
----	--